

4.2 岩美海岸（浦富地区）

4.2.1 概要

図 4.2.1、図 4.2.2 に岩美海岸（浦富地区）の空中写真および現地写真を示す。

中央部には人工リーフが2基設置されており、それらの開口部は深掘れしていることが航空写真からも窺える。

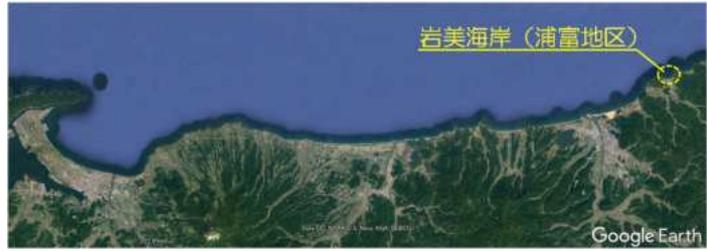


図 4.2.1 岩美海岸（浦富地区）の航空写真（2018年撮影）と現地写真（2020年9月撮影）



図 4.2.2 岩美海岸（浦富地区）の斜め写真（2019年5月撮影）

4.2.2 土砂管理計画

「浦富海岸の土砂管理計画（平成17年6月）」には、目指すべき海岸の姿へ向けた土砂管理計画として、図4.2.3が示されている。

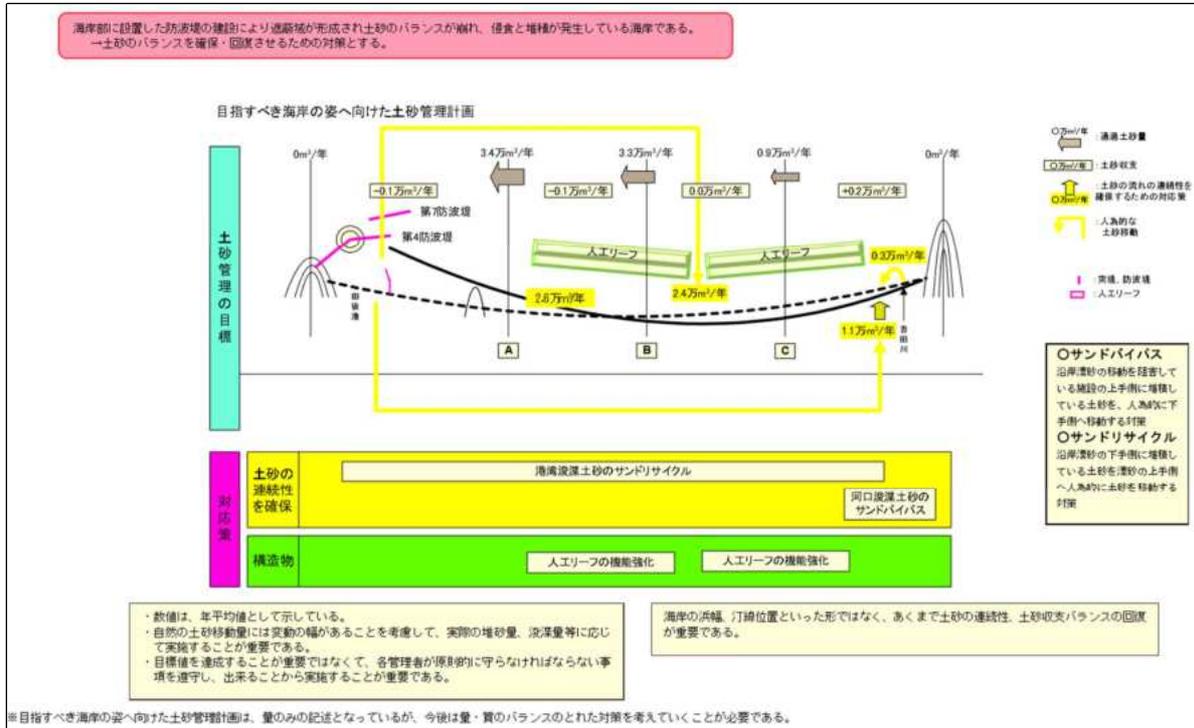


図 4.2.3 目指すべき海岸の姿へ向けた土砂管理計画（浦富地区）

浦富海岸において、侵食対策として整備されている人工リーフの築造履歴を図4.2.4に示す。

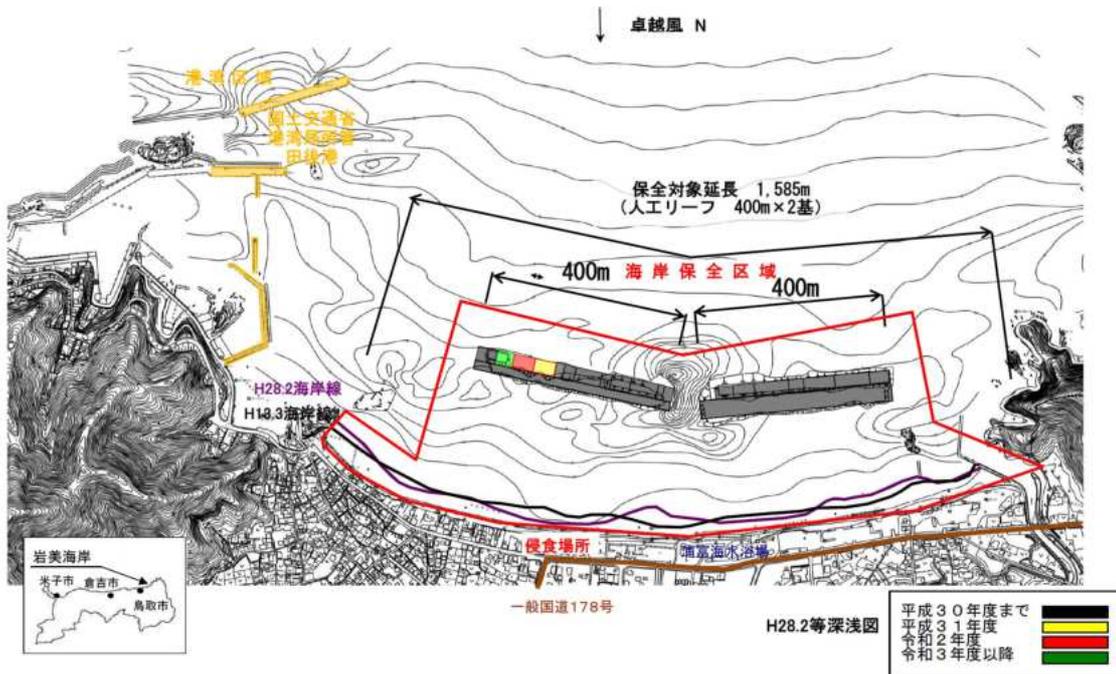


図 4.2.4 岩美海岸（浦富地区）における人工リーフの築造履歴

4.2.3 土砂投入実績

図 4.2.5 に、岩美海岸（浦富地区）における土砂投入状況を示す。

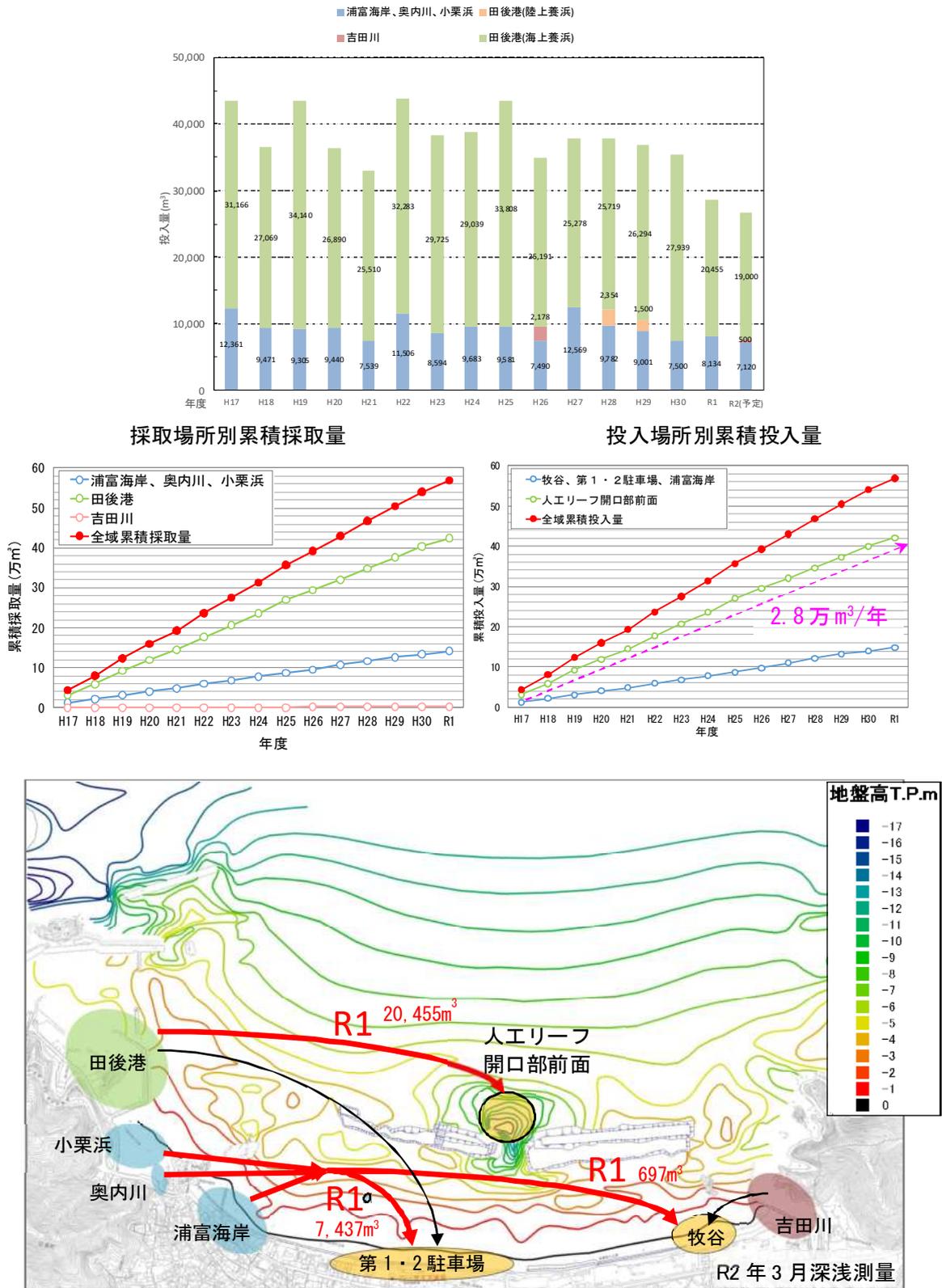


図 4.2.5 岩美海岸（浦富地区）における土砂投入状況

4.2.4 サンドリサイクル効果分析

(1) 水深分布

図 4.2.6 に、直近 3 回分の等深線図と測量期間毎の水深差分図を示す。

2 基の潜堤の間の開口部では洗掘地形が形成されており、洗掘地形が沖側に広がっており、洗掘地形の沖側境界付近に土砂が投入されている。

2019 年 3 月から 9 月にかけて、開口部沖側で堆積が発生しているのは、田後港浚渫土砂の投入によるものと思われる。2019 年 9 月から 2020 年 3 月にかけては、土砂投入エリアを含む人工リーフ沖側で侵食が発生している。

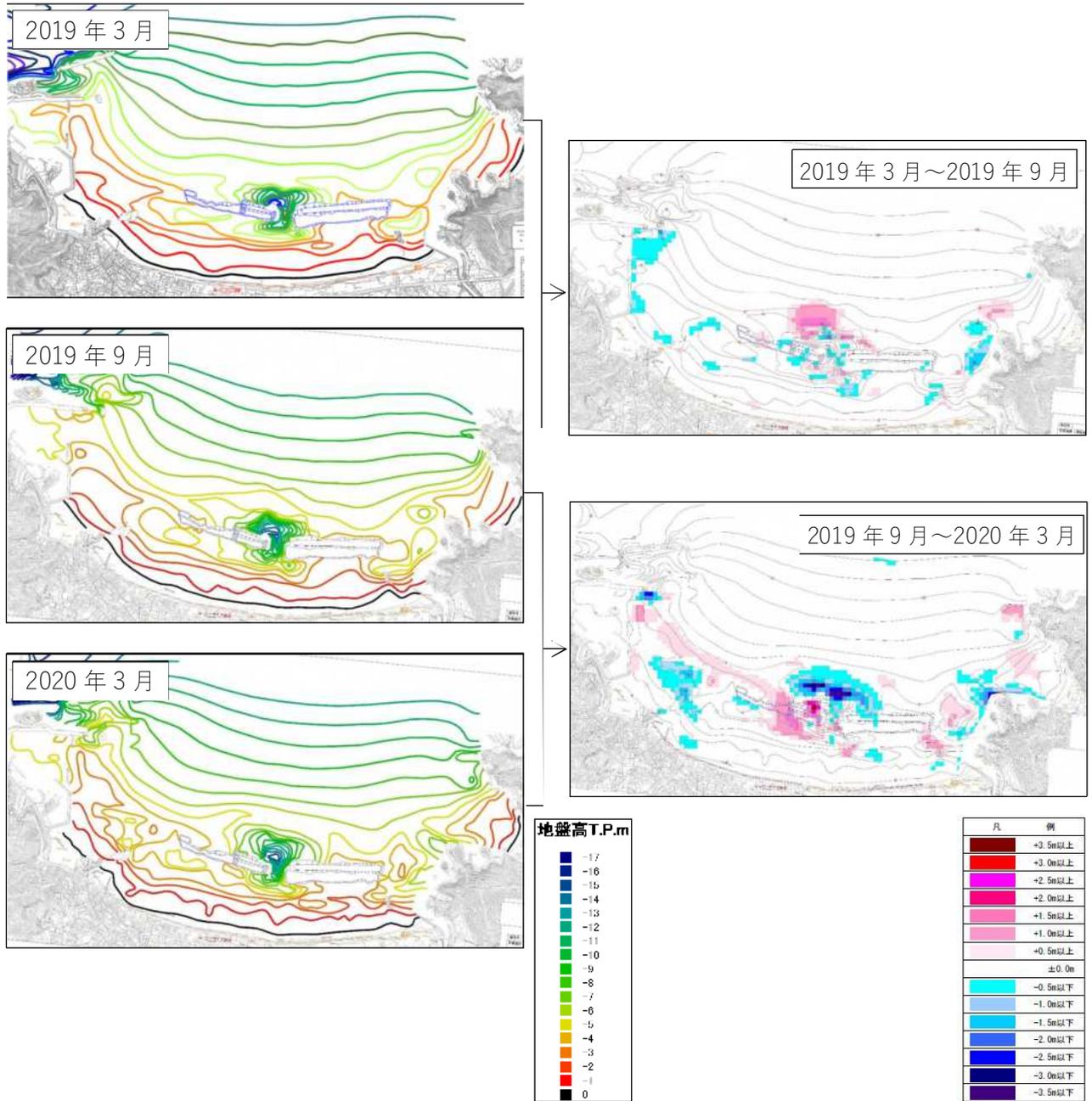


図 4.2.6 2019 年 3 月、2019 年 9 月、2020 年 3 月の等深線図と測量期間毎の水深変化分布

② 横断変化分析

水深差分図より、岩美海岸（浦富地区）に設置されている2基の人工リーフの開口部周辺では、洗堀による比較的大きな地形変化が確認された。そこで、人工リーフ開口部の測線の横断面を抽出し、その経年変化を把握した。図 4.2.7 に横断面の重ね合わせ、図 4.2.8 に最深部の水深の経年変化を示す。

人工リーフの設置後4年間（2008年～2012年）で、人工リーフ開口部では約10m洗堀が生じている。2012年（平成24年）以降は、投入土砂の効果により多少の変動はあるものの、開口部の最大水深は-14～-16mで推移している。

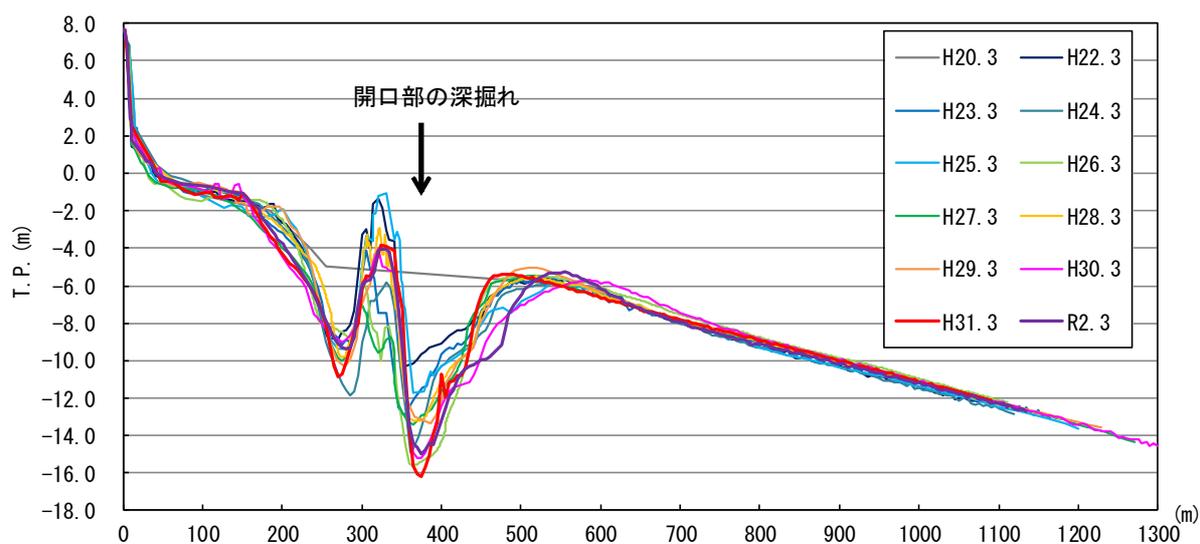
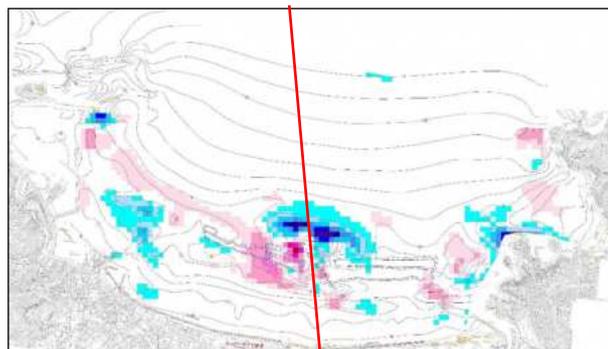


図 4.2.7 人工リーフ開口部の測線の断面変化

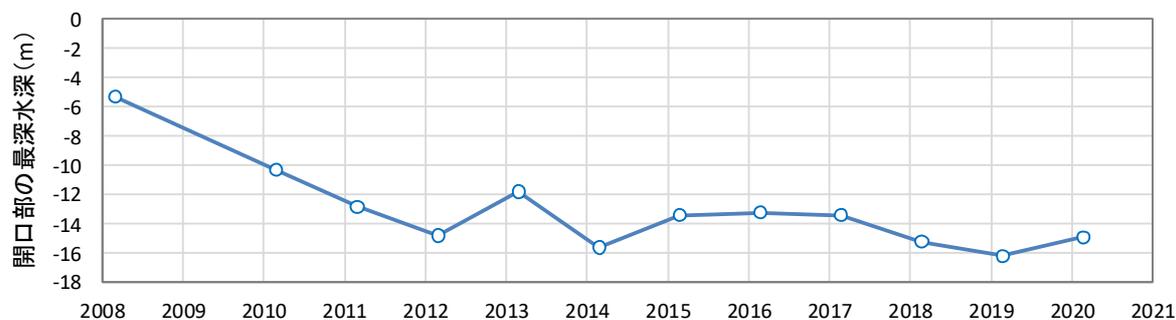


図 4.2.8 開口部の洗堀深の経年変化

(3) 汀線変化分析

1) 長期的な汀線変化

平成12年9月測量、平成13年3月測量を基準とした直近4カ年の汀線変化図を図4.2.9、図4.2.10に示す。人工リーフ未整備部において侵食傾向（整備部は堆積傾向）がみられる。

2) 短期的な汀線変化

直近4カ年における春から秋、秋から春の汀線変化図を図4.2.11、図4.2.12に示す。夏季から冬季の汀線の後退はみられるものの、冬季の汀線はサンドリサイクルの効果により安定傾向にある。

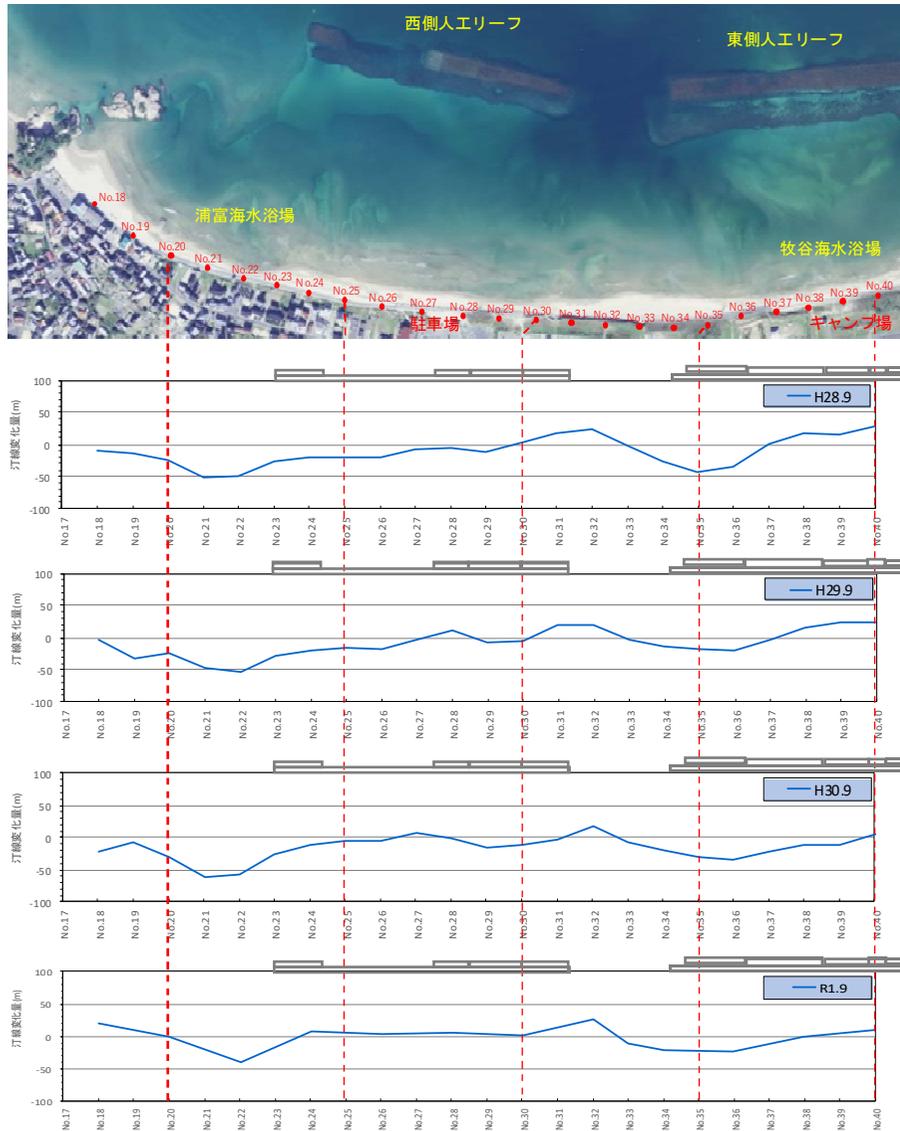


図 4.2.9 岩美海岸（浦富地区）の近年の汀線変化図（平成 12 年 9 月基準）

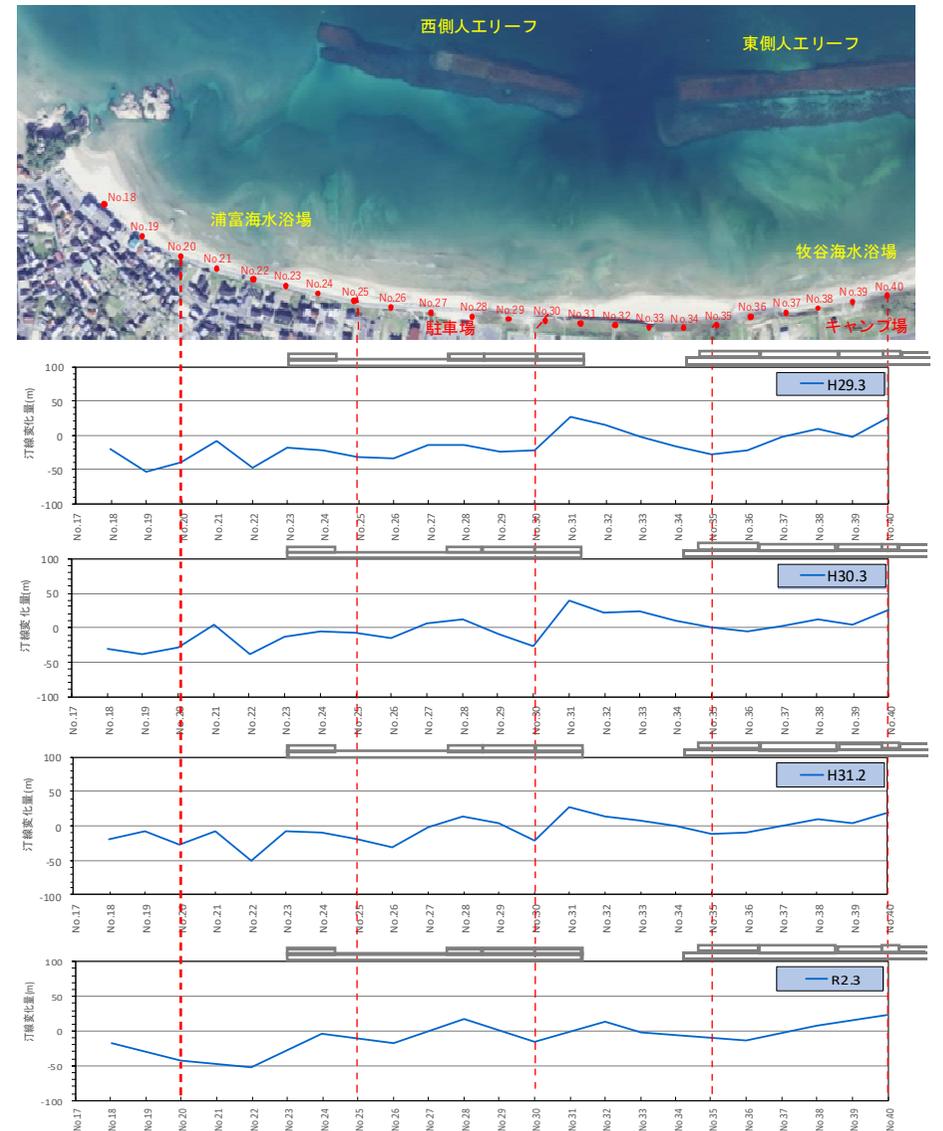


図 4.2.10 岩美海岸（浦富地区）の近年の汀線変化図（平成 13 年 3 月基準）

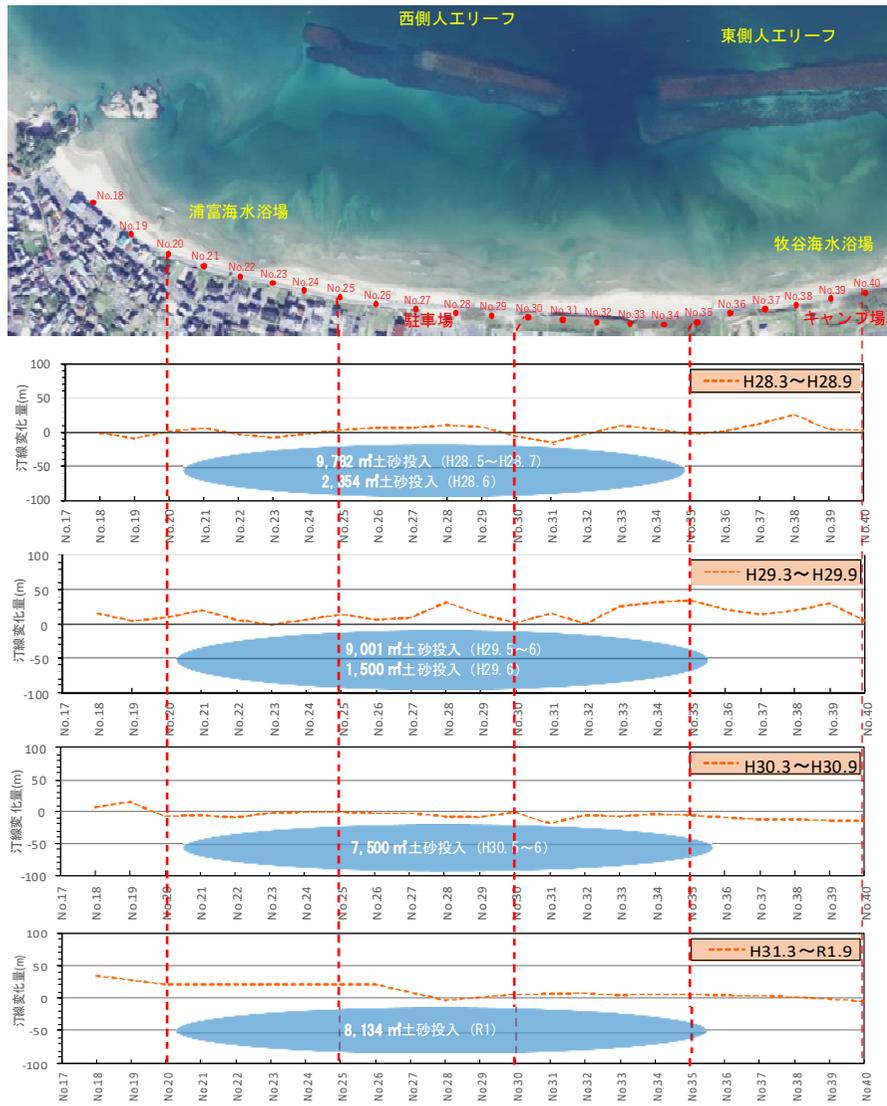


図 4.2.11 岩美海岸（浦富地区）の近年の汀線変化図（春から秋の変化量：1年毎）

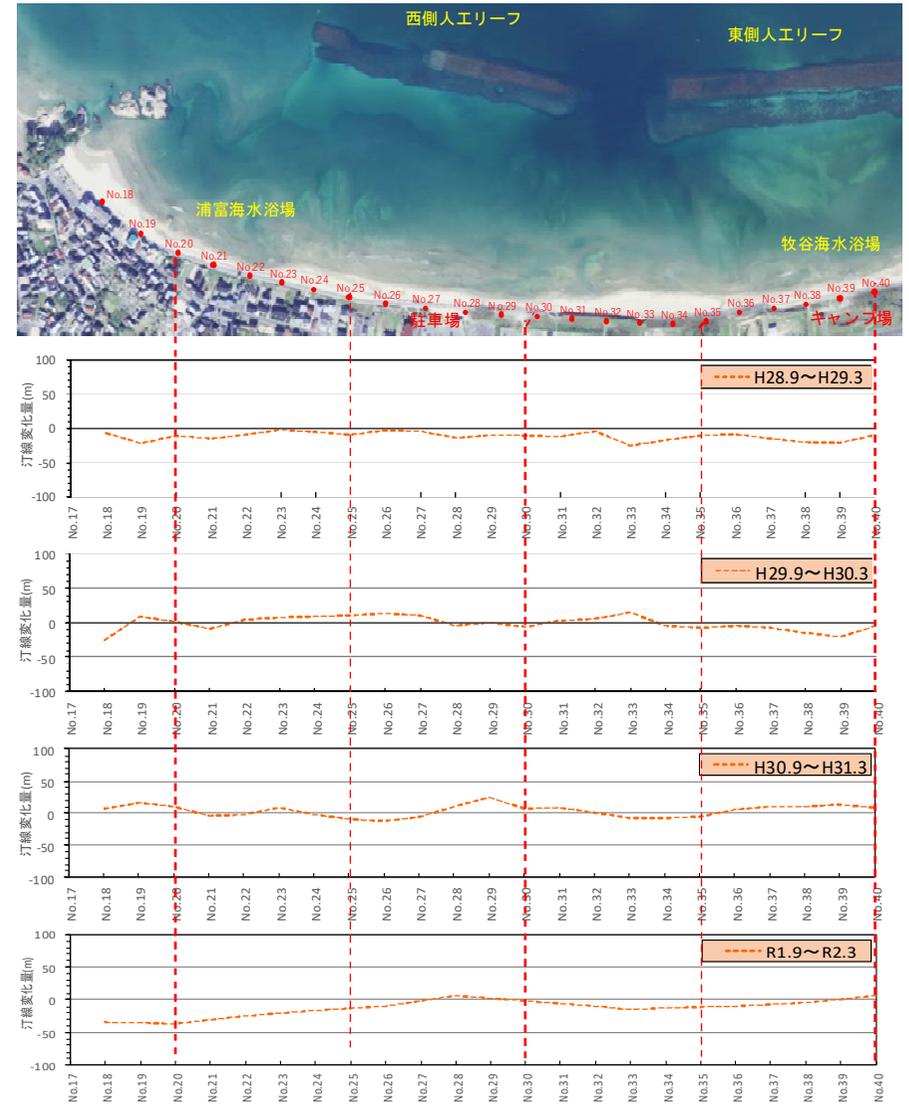


図 4.2.12 岩美海岸（浦富地区）の近年の汀線変化図（秋から春の変化量：1年毎）

(4) 浜幅分析

図 4.2.13 は、直近 4 回分の測量データに基づいて算出した浜幅と、利用面（40m）、防護面（25m）の目安となる浜幅を比較したものである。区間全域において、防護面の目標浜幅（25m）を概ね確保している。浦富・牧谷海水浴場は利用面の目標浜幅（40m）に対して一時的な後退が見られる。

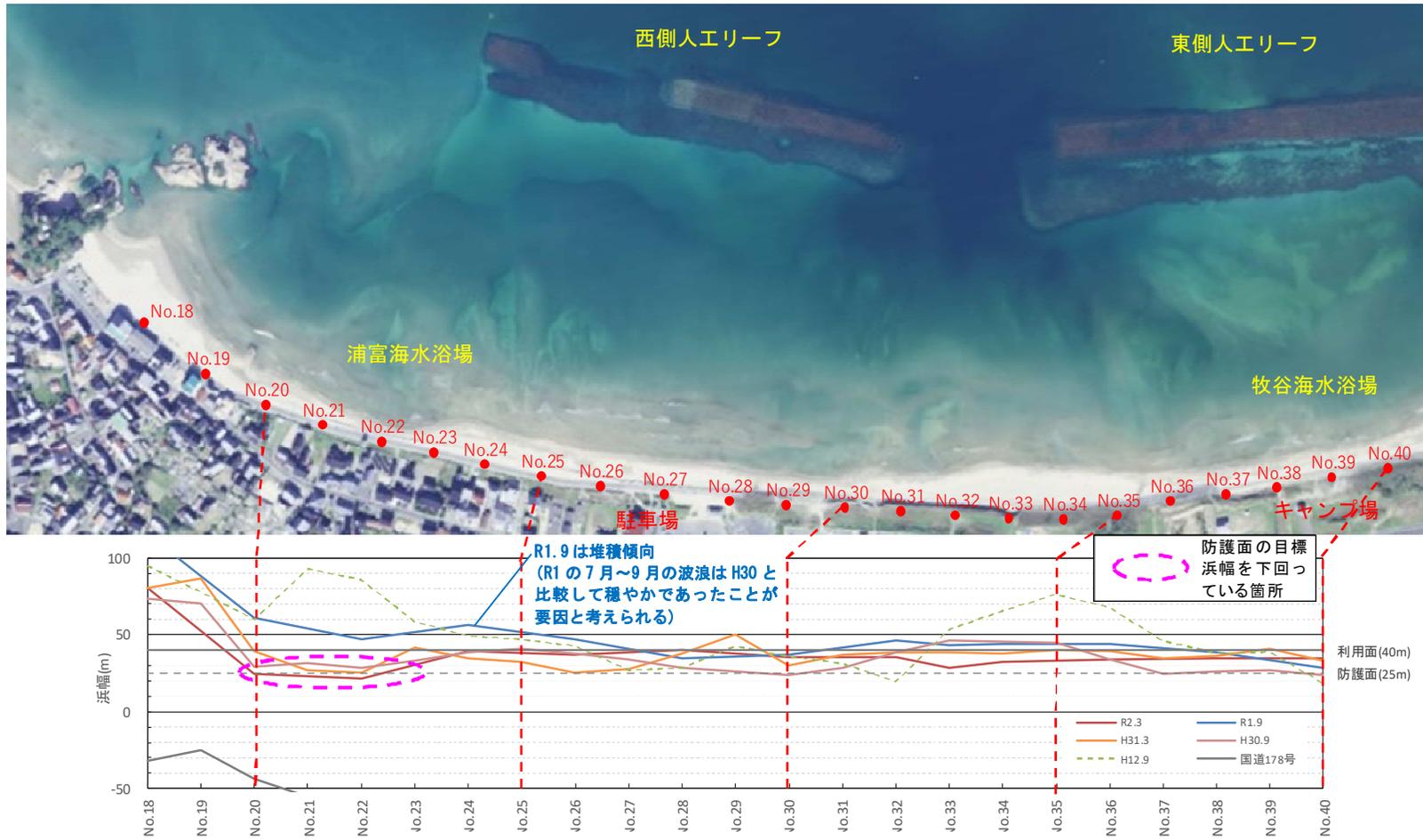


図 4.2.13 利用面、防護面の目安とする浜幅との比較

(5) 今後のサンドリサイクル方策の方向性

岩美海岸（浦富地区）の変化の状況（長期、短期）、浜幅の状況、対策実施状況を表 4.2.1 に示す。表 4.2.1 より、当該海岸における今後のサンドリサイクル方策の方向性を以下に示す。

- ・サンドリサイクルにより汀線は概ね維持されていることから、引き続きサンドリサイクルを行いつつ、経過観察を行う。
- ・浦富・牧谷海水浴場の利用面における浜幅が不足しているため、海水浴時期は浜幅を注視する。

表 4.2.1 岩美海岸（浦富地区）の変化、浜幅、対策実施の状況

海岸	岩美海岸（浦富地区）
変化の状況	<ul style="list-style-type: none"> ■長期的変化（H13～R2 年度） <ul style="list-style-type: none"> ・人工リーフ未整備部において侵食傾向（整備部は堆積傾向）にある。 ・リーフ開口部の局所洗掘はやや緩和傾向にある。 ■短期的変化（H31～R2 年度） <ul style="list-style-type: none"> ・夏季から冬季の汀線の後退は見られるものの、冬季の汀線はサンドリサイクルの効果により安定傾向にある。 ・近年は人工リーフ開口部の局所洗掘についても進行が安定している。
浜幅の状況	<ul style="list-style-type: none"> ■利用面（40m） <ul style="list-style-type: none"> ・浦富・牧谷海水浴場は目標浜幅に対して一時的な減少が見られる。 ■防護面（25m） <ul style="list-style-type: none"> ・概ね目標の 25m を確保している。
対策	<ul style="list-style-type: none"> ■過年度（H13～R1 年度） <ul style="list-style-type: none"> ・サンドリサイクル 年平均（H17～R1 年度）37,900 m³、R1 年度 28,589 m³ ・人工リーフ整備（H29 年度 L=53m、H30 年度 L=25m、R1 年度 L=16m 整備） ・サンドバック（試験施工、H30 年度） ・サンドポンプ（試験施工、H30 年度） ■本年度（R2 年度） <ul style="list-style-type: none"> ・人工リーフ整備（L=53.35m 整備） ・サンドリサイクル ■来年度（R3 年度）予定 <ul style="list-style-type: none"> ・人工リーフ整備（残延長 L=70m） ・サンドリサイクル ・サンドバック本施工